

茶船價百金ヨリ百廿兩バカリ帆及碇モアリ、

〔諸造船式圖〕茶船俗ニ大茶舟、瀬取舟ト云、

上口凡長二丈五尺ヨリ四丈一尺マテ、横七八尺ヨリ一丈位マテ、

但大茶舟ニ、世事所有之ハ、國方茶舟ト云、

傳馬造茶船。

上口凡長二丈一尺ヨリ三丈位、横五六尺ヨリ七八尺マテ、

房丁茶船。

上口凡長三丈一尺ヨリ三丈五六尺マテ、横六七尺、

下利根川通ニ有之

但形小クテ如圖○圖 胴ノ間ニ戸棚有之ヲ耕作舟ト云、江戸往來無之、下利根川通木下河岸

ヨリ下川通船、

〔故郷物語〕森○中 主○黒田如水、及長政等妻女、 可申、若見合咎めば、其時の事よと内談仕り、はや如斯仕けり、

〔船組合定帳〕一享保十三年申ノ九月、關東大水之節、兩國御橋、御役船被爲仰付候ニ付、組合より大

茶船壹艘、船頭四人罷出、御奉公相勤申上候、

〔江戸真砂六十帖〕三深川法善寺偽龍燈之事

深川法善寺うしろは、其頃漫々たる海なり、○中 夏の頃、夜談義して大勢が參詣す、ある時龍燈が

上るといひ出しける、○中 夫をよくきけば、茶舟に乗り、長き竹の先へ行燈を結付て、遠く沖

へこぎ出して、折々上へ竹をあげるよし聞て、殊勝もさめたり、

〔日本永代藏〕浪風靜に神通丸

〔日本永代藏〕浪風靜に神通丸